

中国における若者の服装に対する意識と行動

—— 被服の購入と着装を中心に ——

鮎 田 崎 子・朱 丹 陽*

(被服学研究室)

(平成7年4月28日受理)

I 緒 論

人々が被服を着るという行為は、その時代の社会における政治の変革や経済・文化など社会環境の変化を受けながら継承発展している。中国歴代の服装は、特定の社会制度、生産方式、道德観念、民俗精神、風俗風習の影響を受けながら、独自の様式を生み出してきた。

広大な地域とさまざまな民族からなる中国には多種多様な被服があるが、一般的にはチャイナドレスと呼称される服が中国の民族衣装とされている¹⁾。チャイナドレス誕生までの中国服装の歴史を周汎、高春明著「中国古代服飾風俗」²⁾を参考に、更に、1949年以降の中国社会と服装の関係を概説すると次のようになる。

中国は漢民族を主とする多数民族の国家である。出土品から判断すると、5, 6千年前から布が織られていたことが判明している。周代に冠服制度が始まり、唐代で完備し、明代まで千年近く続いている。この制度では皇帝、貴族、皇后、夫人の礼服や平服を定めていた。時代による特色はあるが、全体的には上衣下裳と衣裳連続の二形式があり、文様と色で位を区別していた。周代には「深衣」と称する上下一体の衣服形式が出現している。足首までの長い形で、後世の袍や衫は、この深衣を基本として発展したものであり、今日のチャイナドレスはこの服の流れをくむものと言える。

秦・漢代には「袍」「衫」が現れている。「袍」は綿入れの下着から外衣に変化した深衣を基礎に形成され、上下一枚続き、広袖形式である。「袍」は単衣で、広袖、大襟の特徴がある。この時期にはズボンも完成された。

魏代には「袴褶」と「裋褌」があった。「袴」はだぶだぶズボンで、「褶」はこのズボンと共に着る身体に密着した上衣であり、活動の便利さから生まれた。「裋褌」は二枚分けの上衣で、胸と背中に一枚ずつ当て、肩で紐によって止めた。これは冬ものとして着用された。

唐代の女子は小袖の短い襦と細長いスカートを着用し、リボンで腋あたりを止めた。唐代は国際的で、外国と交流し、服飾の面でも外国のものを積極的に取り入れた時期であった。そして、その服飾は周辺他国へ伝わり、その国の服飾に大きな影響を与えた。

宋代の「衫」は袖が広く「大袖」とも呼ばれた。女性の服として「大袖」のほか「背子」があった。貴夫人が袖幅の広い「大袖」を着用した。「背子」は対襟で両脇にスリットがあり、

* 中華人民共和国 平成6年度愛媛大学教育学部研究生

膝までの外衣で庶民の女性が着用した。

元代には「辮線襖」があった。袍のウエストが収縮するようにしてあり、結んだ30本の糸が並んでいるのでこの名がつけられた。

明代の「比甲」は袖なし、襟なし、対襟の長い外衣である。

そして、清代にはチャイナドレスが出現し、普及した。

チャイナドレスは中国語では「旗袍」(チーパオ)と呼ぶ¹⁾。これは「満民族の袍」(満民族を「旗人」とも呼んだ)の意味で、これが普及したことによって、中国を代表する服装となり、国際社会では「チャイナドレス」と呼ぶことになった。

満民族は昔から東北地方に住んでいたのも、寒い気候に対応するように長袍の形式をとった。「清」を立て、中国の各民族の服装に大きな影響を与えてきた。清末のスタイルは立襟、足首までの直線的な形である。緞子生地に、刺しゅうを施した。漢民族の女子は礼服として旗袍を着用、日常は襦、襖、裙など伝統服を着たが、辛亥革命(1911年)後、少し工夫して平服としても着始め、旗袍はチャイナドレスとして定着した。1920年初期、旗袍のスタイルは清末のものとかわりはなかった。その後、袖口が縮小し、全体的に細くなった。20年代末、欧米の影響を受け、旗袍の丈は短くなり、ダーツを入れて身体に合わせるようになり、曲線的で、女性の身体美を表現するようになった。30年代は旗袍の全盛期で変化に富んだ。襟の高さや袖と裾の長さが変化した。40年代から様式の変化は少なくなり、よりシンプルに、便利に、身体に合うようにと洗練され、今日のチャイナドレスの母体となった。

「1949年10月から、新中国が誕生した」³⁾と中国のリーダーたちが宣言したとおり、中国は新しい時代に入り、大きく変化した。強い国を建設するという目標を立てたが、これまでの40年余りの道は決して平らではない。国際的な変動もあり、国内でも三反四反⁴⁾、四清⁵⁾、文化大革命⁶⁾などの政治運動が起こり、なかでも生活活動に強く影響を及ぼしたのは1966年から1976年までの文化大革命である。当時、中国は対外的には閉鎖政策をとり、国内では党と国の指導者の行動や生活ぶりが全国民に崇拜され、着用していた服装も模倣された。衣服も革命意識の一部とみなされ、色の鮮やかなもの、模様のあるものはすべて資本主義的なものとされ、着用が禁止されていた。街には紺、黒、緑、灰色の人民服が溢れ、その時代を代表する特徴となっていた。人々はこのような服を一、二着持っていれば、日常生活は無論のこと、冠婚葬祭においても着用できるので、人々の箆笥の中は豊かではなかった。この事情は文化大革命の終わりがさきまでずっと続いていた。

1976年、文化大革命の政策は間違っていたと党が自ら反省し、開国し、経済を発展させ、人々の生活レベルを高めようと新しい政策を取り直した。その頃から外国の映画が上映されるようになり、映画の登場人物の服装に若者は目を見張らせたようである。それ以降、若者たちは外国の服装を模倣し始め、外国のものならなんでも真似ようとした。例えば、70年代末から80年代初めまで、若者は男女ともラップズボンを着用し、男性は髪を長く伸ばしたりしていた。これは今までになかった服装で、この流行現象は当時の社会問題になり、退廃的だと強く批判されたりもした。

80年代に入ると、外国の映画、テレビドラマなどが数多く輸入されるのみならず、中国への観光や、留学で外国人もたくさん出入りするようになった。更に、白黒テレビが普及し始め、外国への留学者も増えて、中国人の視野が広がっていった。その頃から、男性は背広を着るようになった。女性には、まだファッションらしいものはなかったが、この時期、男女の差別な

く好まれたのはジーンズであった。この頃まで、女性は特に気に入る物とか、自分に合うデザインを求めようとはせず、新様式のものでさえあればよいと人に遅れをとらないようにしていたようである。しかし、この時期、既製服の種類はまだ乏しく、大部分の人は生地を買って、裁縫店に好きな服を注文製作してもらい着用していた。このごろの流行の変化は遅く、種類も少なかった。

80年代末から、輸入品が多くなり、布地も色柄から材料まで多種多様で、既製服も輸入されるようになる。被服商品がそれほど豊かでない状況で、輸入された服は珍重され、若者は外国の被服を欲しがっていた。このような要求に応じて、合弁会社が雨後の筍のように造られ、デザインから生地まで変化に富んだ既製服がどんどん出まわり、輸入服もたくさん店頭飾られるようになってきた。この段階では、人々は特別なデザイン、新奇さで被服を選んでいたように思われ、自分の体型に合うかどうかの配慮はせず、場所柄にふさわしくないような服装をしている人も多い状況を呈していた。

1990年代になって、日本、フランス、アメリカなどの有名デザイナーたちが中国に店を出し始め、定期的にファッション展示会を開き、中国と世界との流行時間差を縮め、同時に服装文化も伝えるようになった。その頃から、中国人は服装と自分との関係を考えはじめ、単純に流行を追うのはおかしいことだと、自分なりに着こなそうとする人が増えてきたようである。

外国のものばかり着たがるのはいいことかという意見も出始め、中国の特色ある被服を発展させようという呼びかけも出てきた。中国の伝統衣装であるチャイナドレスは結婚式やパーティーには利用されているが日常生活では着用されていない。赤色がめでたい色とされ、結婚式の時、花嫁は必ず赤いドレスあるいはピンクのドレスを着ることになっている。日常生活では、自転車の普及で女性もズボンをよく着用している。

中国においては、1978年の中国共産党第11期3回中央委員会全体会議で、科学技術、工業、軍事、経済の4つの現代化が推進されることが決まり、1984年以降、都市部における経済改革がすすめられ、市場経済が活況を呈するようになり、一般市民の購買力が拡大された⁷⁾。

本研究は、長い歴史を持ち、社会的変革を経て、市場経済への道をすすんでいる中国において、若者の服装に対する意識と行動がどのような状況であるかを被服の購入態度と着意意識から明らかにするものである。

II 研究方法

調査対象は若者の代表として大学生を対象とした。北京市に在住する北京師範大学と北京科技大学の学生で、男子256名、女子258名、合計514名である。

調査方法は質問紙法によった。

調査内容は衣服観、被服の購入、被服購入時の重視項目、ファッション情報源、身体状況、民族衣装（チャイナドレス）、衣装のレンタル、着意意識、衣生活の充実感である。

調査期間は1994年9月下旬から10月初旬である。

結果は単純集計、男女別集計、数量化Ⅱ類、数量化Ⅲ類、クラスター分析を行い考察し、有意性を明確にするために χ^2 検定を行った。

Ⅲ 結果と考察

1. 回答者の属性

回答者の属性を男女・学部・学年・年齢・出身地・居住形態別に示すと表1のとおりである。

学部は教育・心理系，文系，工学系，理化学系，芸術系，体育系とした。文系は外語系，哲学系，中文系を含み，工学系は管理系，計算系，電子系，自動化系，圧加系，軋鋼系，機械系，地質系，冶金系を，理化学系は化学系，物理化学系を含む。文系は26.3%，工学系は37.7%を占めている。

学年は入学時の年で表す。94年級は1年生である。94年級から91年級を含むが，93年級は16.5%，92年級は60.5%を占めており，2年と3年にあたる学年が多い。

年齢は18歳から24歳以上で，20歳が30.0%，21歳が30.4%を占めており，主として20歳と21歳の学生が多い。24歳以上には24歳を含み，27，28，29，31歳の者がいる。

出身地は東北・華北・華東・華南・西南・西北の6地区に区分した（図1）。全国から集まっているが，北京が位置する華北地区出身が33.1%を占める。

居住形態は寄宿舎が49.6%，自宅生は35.4%である。

2. 衣服観

人が衣服をどのようにとらえているかは衣生活意識と行動の根幹にかかわることと思われ，7項目の選択肢法によりその傾向をみた（図2）。

衣服は「自分の美しさや魅力を引き出してくれるもの」「気分を変えたり別の自分を演出してくれるもの」「身だしなみや儀礼として，他人との円満な関係を保つのに役立つもの」と考えている者が多い。

男女別には0.1%水準で有意差が認められ，男子は「身だしなみや儀礼として」「自分の美しさや魅力を引き出すもの」ととらえているに対し，女子は「自分の美しさや魅力を引き出すもの」「気分を変えたり別の自分を演出してくれるもの」ととらえている者が多く，衣服観に男女差が認められる。

表1 回答者の属性

		人 (%)		
男女別		男 子	女 子	全 体
区 分		256(49.8)	258(50.2)	514(100.0)
学 部	教育・心理系	20(7.8)	46(17.8)	66(12.8)
	文系	56(21.9)	79(30.6)	135(26.3)
	工学系	113(44.1)	81(31.4)	194(37.7)
	理化学系	37(14.5)	23(8.9)	60(11.7)
	芸術系	8(3.1)	17(6.6)	25(4.9)
	体育系	22(8.6)	12(4.7)	34(6.6)
学 年	94年級(1年)	16(6.3)	30(11.6)	46(8.9)
	93年級(2年)	42(16.4)	43(16.7)	85(16.5)
	92年級(3年)	161(62.9)	152(58.9)	313(60.9)
	91年級(4年以上)	37(14.5)	33(12.8)	70(13.6)
年 齢	18才	11(4.3)	21(8.1)	32(6.2)
	19才	23(9.0)	39(15.1)	62(12.1)
	20才	65(25.4)	89(34.5)	154(30.0)
	21才	90(35.2)	66(25.6)	156(30.4)
	22才	40(15.6)	29(11.2)	69(13.4)
	23才	16(6.3)	9(3.5)	25(4.9)
	24才以上	11(4.3)	5(1.9)	16(3.1)
出 身 地	東北地区	37(14.5)	31(12.0)	68(13.2)
	華北地区	83(32.4)	87(33.7)	170(33.1)
	華南地区	34(13.3)	37(14.3)	71(13.8)
	華東地区	54(21.1)	47(18.2)	101(19.6)
	西南地区	25(9.8)	33(12.8)	58(11.3)
	西北地区	23(9.0)	23(8.9)	46(8.9)
居 住 形 態	自宅	92(35.9)	90(34.9)	182(35.4)
	寄宿舎(寮)	119(46.5)	136(52.7)	255(49.6)
	アパート	25(9.8)	12(4.7)	37(7.2)
	その他	20(7.8)	20(7.8)	40(7.8)

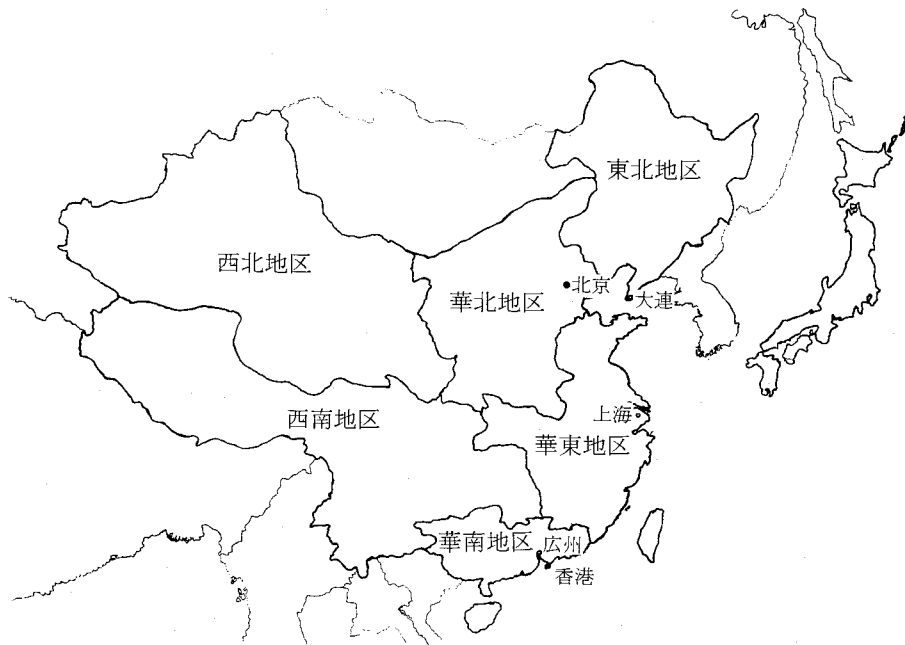


図1 中国地区区分

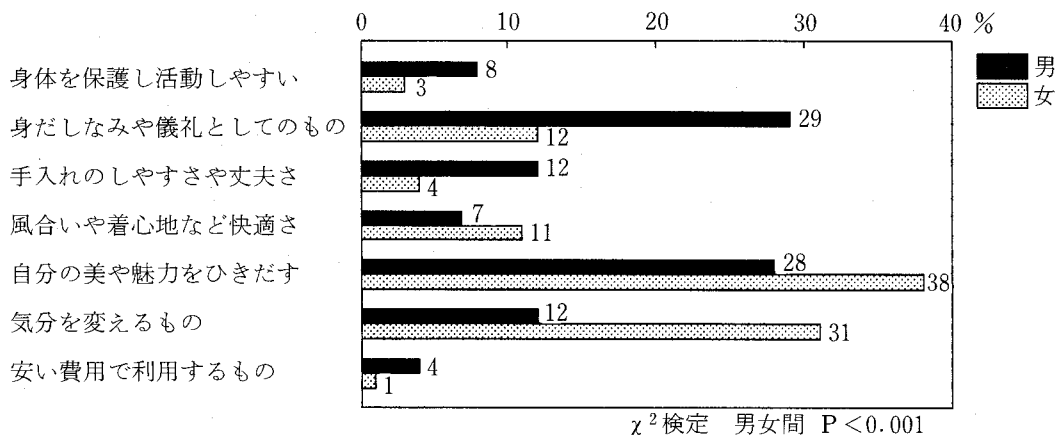


図2 衣服観

3. 被服の購入状況

1) 被服の購入態度

被服の購入に関する行動で、2つの相反した考えのどちらに近いかについて4段階尺度でたづね、購入態度の傾向をみた(図3)。

被服費にお金をかけていると思っているのは30%であり、被服にお金をかけていないと思っている者が多い。被服は計画的に購入(61%)し、購入する店は行き当たりばったり(88%)である。被服の購入選択行動は、個性的なものを買う個性派(76%)が多く、無難派は少ない。品質派か価格派かに関しては、品質派(57%)が価格派を上回っている。流行のデザインや色に関して敏感なほう(52%)、関心がないほう(48%)とほぼ半数であるが、メーカーやブランドにこだわる(28%)、新しいファッションを積極的に取り入れる(24%)者は少ない。

男女別では1%水準で有意差が認められる項目はなく、被服の購入態度に関しては男女の意識差はほとんどない。

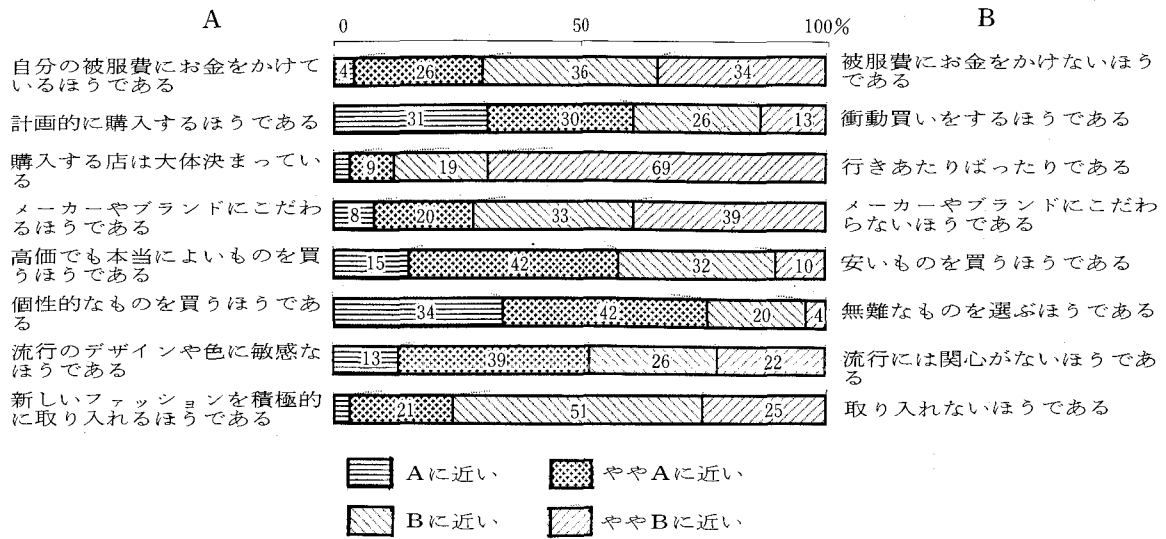


図3 被服の購入態度の調査結果（全体状況）

2) 被服購入時の重要項目

既制服を購入する際の意志決定の要因はなにかについて、8項目の選択枝法で問うた（図4 5, 6）。

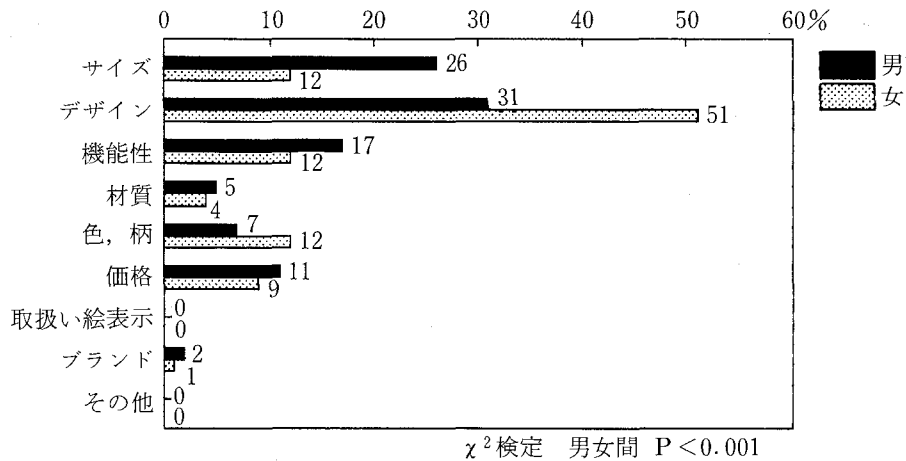


図4 被服購入時の第1位重視項目

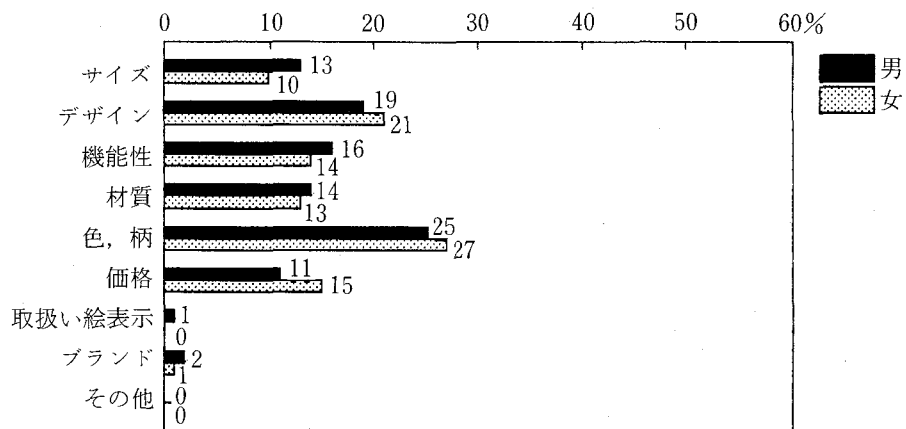


図5 被服購入時の第2位重視項目

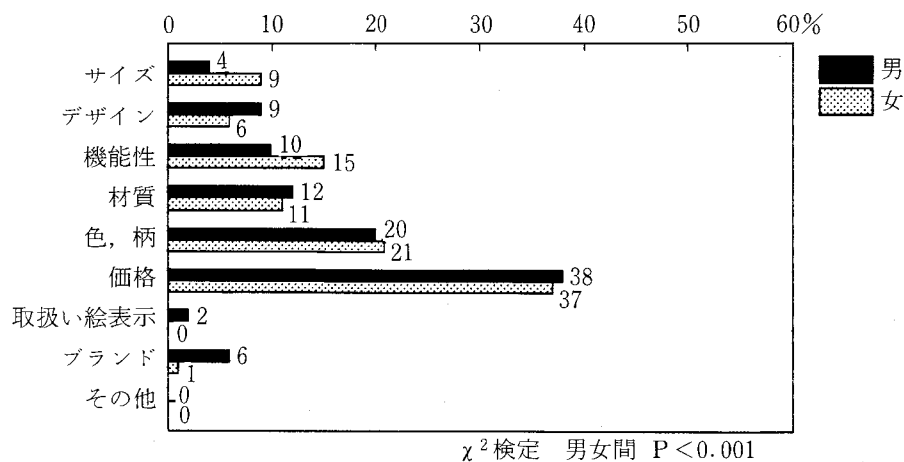


図6 被服購入時の第3位重視項目

第1位に重視することはデザイン（全体の割合41%）、サイズ（19%）、機能性（着やすさ）（14%）、価格（10%）、色・柄（10%）である。

第2位に重視することは色・柄、デザイン、機能性、第3位に重視することは価格、色・柄、機能性である。デザイン、サイズ、機能性（着やすさ）、色・柄、価格が重視され、材質、ブランド、取り扱い表示に関する重視度は低い。

3) ファッション情報源

主たるファッション情報源（図7）は、店の商品（50%）、街ゆく人の服装（20%）であり、雑誌、新聞、テレビはファッション情報源となっていない。

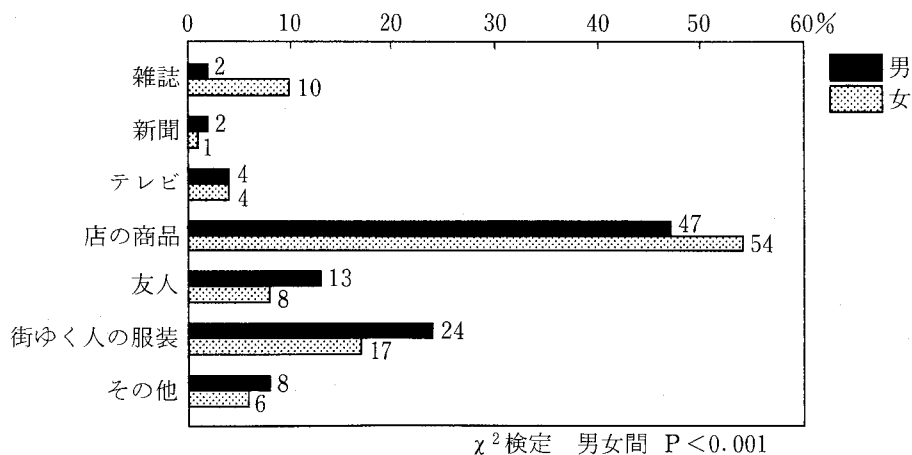


図7 ファッション情報源

4. 身体意識

着装の基体となる身体に関して、自分の身体寸法の認識度と身体特徴を気にしているかどうかについて問うた（図8、9）。

自分の身体寸法を58%が知っている。女子の認識度が高い。身体特徴が気になるところがあるのは42%であり、11%は気になるところが多いとしている。これも女子のほうが身体特徴を気にしている率が高い。

「身体寸法を知っている」と「身体特徴が気になる」との関係を見ると、1%水準で、自分の身体寸法を知っている人ほど身体特徴が気になるところが多いとの関係が認められた（図略）。

5. 民族衣装、衣装レンタルについて

中国民族服を代表するチャイナドレスの着用経験は女子に10%あり、今後、チャイナドレスを着用したいと希望するのは女子の53%である。日本においては、民族衣装としての和服を着用する機会が多いが、中国においては、現在、結婚式に着用されている程度である。民族衣装の利用はその国の生活文化、生活習慣等と関連している。今後、社会経済の発展、生活様式の変化に伴い、チャイナドレスを着用したい人は増加していくと思われる。

衣装のレンタル利用については、これまでの経験も今後の利用希望も極めて少ない。衣料事情がレンタル業の発展にまで至っていない状況からきていると思われる（図10～13）。

6. 着意意識

1) 全体・男女別状況

着意に関する17項目について「そう思う」から「そう思わない」の4段階尺度で評価を得て、意識の高い順に示した（図14, 15）。

全体に着意意識が高いのは「服を着てどのように見えるか私にとって重要である」「服の色の調和に注意している」「時・場所・目的に応じた装いをする」「着心地や肌ざわりの良い服装をしている」「服の組み合わせを楽しんでいる」「服装に自分の好みを反映させている」である。服装において周囲の人の目を気にする意識が高い。

逆に意識が低いのは「周囲の人と同じような服装をする」「既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しむ」「自分の服に鮮やかな色を好む」「服装によって気分が左右される」等であり、服装による周囲との同調性や逆に独自性を求める意識は低い。

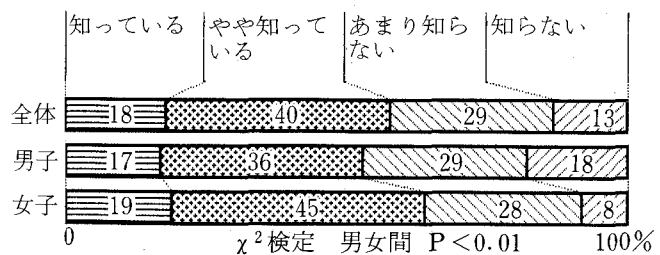


図8 身体寸法認識状況

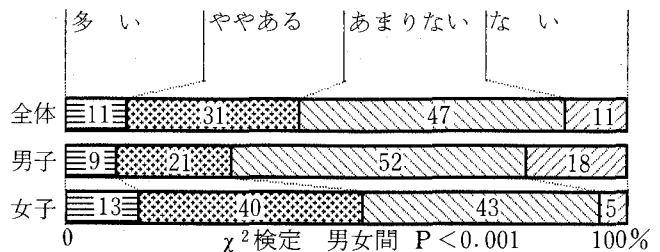


図9 身体特徴の気になるところの有無

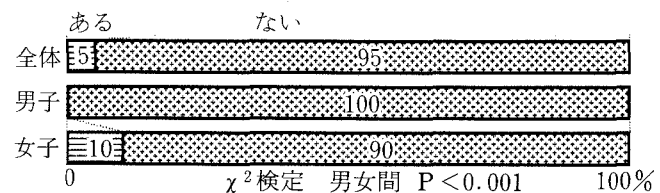


図10 民族衣裳（チャイナドレス）着用経験

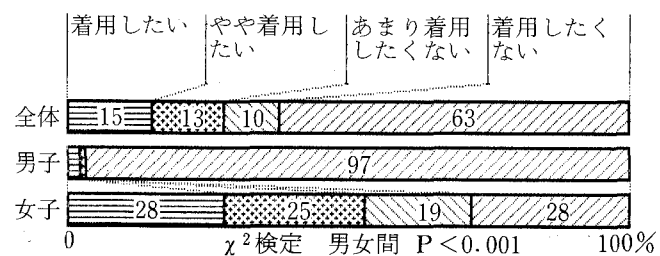


図11 今後の民族衣裳着用希望

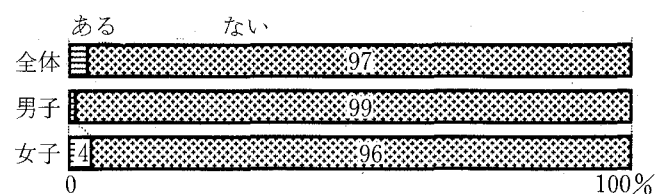


図12 衣裳レンタル利用経験

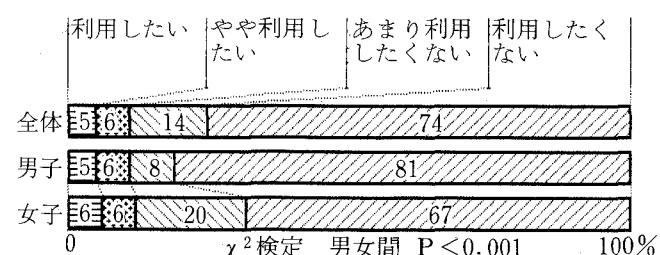


図13 今後の衣裳レンタル利用希望

男女間に有意差が認められるのは14項目であり、「自分の服に鮮やかな色を好む」以外の13項目は女子の意識が高い。

2) 着衣意識の類型化—数量化Ⅲ類, クラスター分析結果

質問項目への反応パターンをもとに数量化Ⅲ類による分析を行った結果, 類型設定に有効な基本軸が析出された。第1軸は自分の服を装う心の意識で, 周囲の人の目を気にするものとそうでないものを弁別する軸, 第2軸は自分の服の装い方の意識で, ファッションに積極的か消極的かを弁別する軸である。これらの軸へのサンプル得点をもとにクラスター分析を行った結果, 4タイプに分類することができた。さらに, 4クラスターと着衣意識とのクロス集計を行い, 4タイプの特徴を分析した。各タイプに高い率で表れた項目を表2に, タイプ別構成比を表3に示す。

タイプ1は, 全ての者が服を着てどのように見えるかを重要と考えており, TPOに応じた服装をする, 服の色の調和に注意する者もかなり多い。また, 周囲の人に好感が持たれるような服装をこころがけている者も多いことから, かなり周囲の人の目を気にするタイプである。ファッションにおいては, 服の組み合わせを楽しんだり, 服装に自分の好みを反映させたりしている者が多く, 周囲の人と同じような服装をすることが多くない, 服装によって気分が左右されない, その日の気分を着る服をきめない, 着こなしに自信がある等から自分の装いにしっ

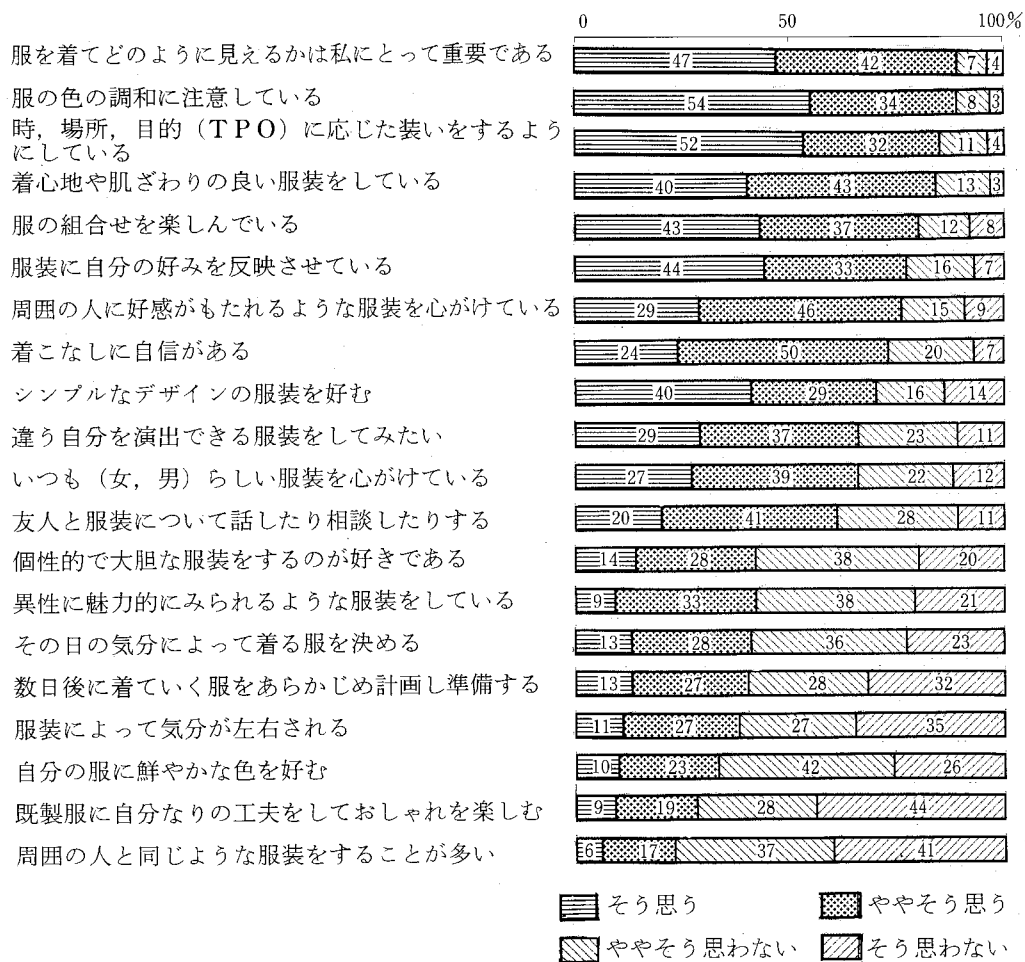


図14 着衣意識に関する調査結果 (全体)

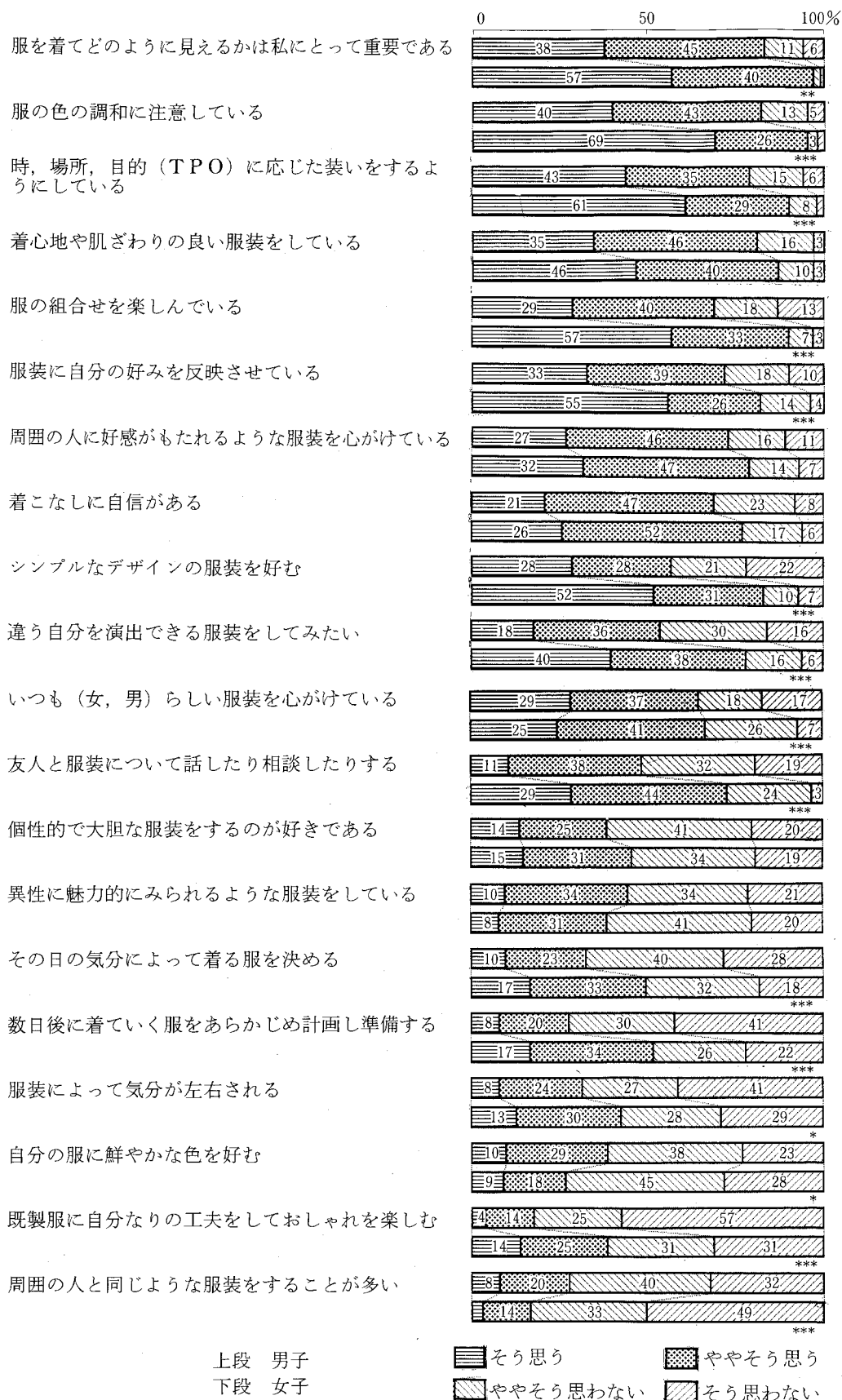


図15 着装意識に関する調査結果 (男女別)

中国における若者の服装に対する意識と行動

表2 着装意識のタイプ別特徴

タイプ	着装意識上位項目 (%)	購入態度/生活意識上位項目 (%)
タイプ1	服を着てどのように見えるかは私にとって重要である (100.0)	個性的なものを買うほうである (79.4)
	時, 場所, 目的(TPO)に応じた装いをするようにしている (99.4)	新しいファッションを積極的に取り入れないほうである (77.4)
	服の色の調和に注意している (99.4)	自分の衣生活が充実していると思う (67.7)
	服の組合せを楽しんでいる (96.8)	高価でも本当によいものを買うほうである (66.5)
	着心地や肌ざわりのよい服装をしている (96.1)	自分の被服費にお金をかけないほうである (65.8)
	周囲の人に好感が持たれるような服装を心がけている (93.5)	色々な経験を積むようにしている (95.5)
	着こなしに自信がある (91.0)	全体に充実した生活を送っている (93.5)
	服装に自分の好みを反映させている (89.0)	学生生活を楽しんでいる (89.7)
	違う自分を演出できる服装をしてみたい (81.9)	学業に精を出している (87.1)
	シンプルなデザインの服装を好む (81.3)	サークル活動や趣味に熱中している (82.6)
	友人と服装について話したり相談したりする (74.2)	何かをするときこれまでのしきたり, 慣習にとらわれずに決めている (82.6)
	周囲の人と同じような服装をすることが多くない (96.1)	他の人と違う個性的な生き方を心がけている (80.0)
	自分の服に鮮やかな色を好まない (85.2)	
	服装によって気分が左右されない (71.6)	
	その日の気分によって着る服を決めない (63.2)	
タイプ2	服を着てどのように見えるかは私にとって重要である (82.9)	メーカーやブランドにこだわらないほうである (85.5)
	服の色の調和に注意している (80.3)	新しいファッションを積極的に取り入れないほうである (85.5)
	時, 場所, 目的(TPO)に応じた装いをするようにしている (73.7)	自分の被服費にお金をかけないほうである (77.6)
	着心地や肌ざわりのよい服装をしている (71.1)	個性的なものを買うほうである (67.1)
	いつも(女, 男)らしい服装を心がけている (68.4)	色々な経験を積むようにしている (85.5)
	数日後に着ていく服をあらかじめ計画し準備しない (73.7)	学業に精を出している (80.3)
	既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しまない (71.1)	全体に充実した生活を送っている (77.6)
	個性的で大胆な服装をするのが好きではない (68.4)	サークル活動や趣味に熱中している (76.3)
	異性に魅力的にみられるような服装をしていない (68.4)	学生生活を楽しんでいる (75.0)
		何かをするときこれまでのしきたり, 慣習にとらわれずに決めている (73.7)
タイプ3	服を着てどのように見えるかは私にとって重要である (98.7)	個性的なものを買うほうである (91.1)
	服の組合せを楽しんでいる (97.5)	流行のデザインや色に敏感なほうである (66.5)
	時, 場所, 目的(TPO)に応じた装いをするようにしている (95.6)	高価でも本当によいものを買うほうである (65.2)
	服の色や調和に注意している (95.6)	自分の衣生活が充実していると思う (65.2)
	着心地や肌ざわりのよい服装をしている (93.0)	色々な経験を積むようにしている (91.1)
	服装に自分の好みを反映させている (91.1)	サークル活動や趣味に熱中している (88.0)
	いつも(女, 男)らしい服装を心がけている (89.9)	学生生活を楽しんでいる (86.1)
	違う自分を演出できる服装をしてみたい (88.6)	全体に充実した生活を送っている (86.1)
	既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しむ (86.1)	何かをするときこれまでのしきたり, 慣習にとらわれずに決めている (84.8)
	周囲の人に好感が持たれるような服装を心がけている (80.4)	他の人と違う個性的な生き方を心がけている (79.1)
	シンプルなデザインの服装を好む (79.7)	学業に精を出している (74.1)
	個性的で大胆な服装をするのが好きである (74.7)	
	友人と服装について話したり相談したりする (70.9)	
	その日の気分によって着る服を決める (70.3)	
	異性に魅力的にみられるような服装をしている (67.7)	
タイプ4	服の色の調和に注意している (71.2)	新しいファッションを積極的に取り入れないほうである (87.2)
	服を着てどのように見えるかは私にとって重要である (69.6)	自分の被服費にお金をかけないほうである (84.8)
	その日の気分によって着る服を決めない (94.4)	メーカーやブランドにこだわらないほうである (81.6)
	数日後に着ていく服をあらかじめ計画し準備しない (93.6)	流行には関心がないほうである (73.6)
	異性に魅力的にみられるような服装をしていない (93.6)	色々な経験を積むようにしている (84.0)
	既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しまない (90.4)	全体に充実した生活を送っている (75.2)
	服装によって気分が左右されない (89.6)	学生生活を楽しんでいる (70.4)
	個性的で大胆な服装をするのが好きではない (88.0)	学業に精を出している (64.0)
	自分の服に鮮やかな色を好まない (84.0)	
	違う自分を演出できる服装をしたいと思わない (82.4)	
	周囲の人と同じような服装をすることが多くない (81.6)	
	友人と服装について話したり相談したりしない (65.5)	

表3 タイプ別構成比

人 (%)

区 分 タイプ	性 別		学 年 別			
	男	女	1 年	2 年	3 年	4 年
タイプ1 155(30.2)	46(29.7)	109(70.3)	16(10.3)	21(13.5)	95(61.3)	23(14.8)
タイプ2 76(14.8)	59(65.8)	26(34.2)	5(6.6)	17(22.4)	45(59.2)	9(11.8)
タイプ3 158(30.7)	71(44.9)	87(55.1)	16(10.1)	24(15.2)	96(60.8)	22(13.9)
タイプ4 125(24.3)	89(71.2)	36(28.8)	9(7.2)	23(18.4)	77(61.6)	16(12.8)

 χ^2 検定 男女間 $P < 0.001$

かりとした意志を持っていると考えられる。

タイプ2は、服を着てどのように見えるか重要と考え、服の色の調和に注意し、TPOに応じた装いをする者がやや多い。これより、周囲の人の目をやや気にする特徴がある。ファッションにおいては、着心地や肌ざわりのよい服装をしている者が多いものの、服を準備する計画性が低く、既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しまない、個性的で大胆な服装を好まない、異性に魅力的にみられるような服装をしないという者が多いことから、ファッションに対しては消極的である。

タイプ3は、服を着てどのように見えるかを重要と考え、TPOに応じた装いをし、服の色の調和に注意している者が多い。また、周囲の人に好感が持たれるような服装をしている者も多く、周囲の人の目を気にする特徴がある。しかし、タイプ1より割合的に低い。ファッションにおいては、服の組み合わせを楽しんだり、既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しんだりしている者が多い。シンプルなデザインの服装を好み、かつ、個性的で大胆な服装を好んだり、違う自分を演出できる服装をしてみたいと思っている者、異性に魅力的にみられるような服装をしている者が多く、ファッションに対してかなり積極的である。

タイプ4は、服の色の調和に注意したり、服を着てどのように見えるか重要と考えている者がいるものの、他タイプより低い。これより、他タイプより、あまり周囲の人の目は気にしていないタイプである。ファッションにおいては、異性に魅力的に見られるような服装をしていない、既製服に自分なりの工夫をしておしゃれを楽しんでいない、個性的で大胆な服装を好まない、違う自分を演出できる服装をしたいと思わないという者が多く、ファッションに対しては、かなり消極的である。

着装意識のほか、衣生活意識や購入態度、生活するうえでの考え方とクロス集計を行い、各タイプの特徴をまとめると次のとおりである。

タイプ1は、周囲の人の目をかなり気にしており、ファッションにはやや積極的である。自分の衣生活に対してしっかりした認識を持っており、かなり積極的に生活している者が多い。

タイプ2は、周囲の人の目を気にする特徴があるがファッションに対しては消極的である。衣生活では消極的であるが、生活面においては積極的生活を送っている者が多い。

タイプ3は、周囲の人の目をやや気にし、ファッションには積極的である。自分の衣生活が

充実していると思っている者が多く、衣生活にも生活面にも積極的である。

タイプ4は周囲の目を気にせず、ファッション意識も低い。ファッション、衣生活に対して否定的かつ消極的である。生活面においては積極的面もみられるが、他タイプと比べると消極的である。

タイプ別人数はタイプ3, 1, 4, 2の順であり、タイプ3, 1に属する者が多い。タイプ3は男女の比率がほぼ同じ、タイプ1は女子が、タイプ4, 1は男子が多く、タイプ3が平均的タイプであると考えられる。

7. 衣生活の充実感

以上のような服装に対する意識と行動をとる若者が衣生活に充実感を感じているかどうかを見ると(図16)、充実している(19%)、やや充実している(42%)となり、男女ともに60%の者が充実していると感じていることが明らかになった。

次に、「衣生活が充実している」の意識を左右する項目や強くかかわっている条件を明らかにするため、衣生活が充実している(やや充実しているを含む)群と充実していない群を外的基準に、着意意識、被服の購入状況等衣生活に関する内容、属性を説明要因として数量化Ⅱ類による分析を行った(表4)。

結果、偏相関係数が0.09以上を示し、「衣生活が充実している」意識に強く関与している要因は「着こなしに自信がある」「服装によって気分が左右される」「身体特徴に気になるところがある」の項目と属性の居住形態である。

以上のことから、中国において若者が衣生活に充実感を感じているのは、身体特徴に気になるところがなく、着こなし

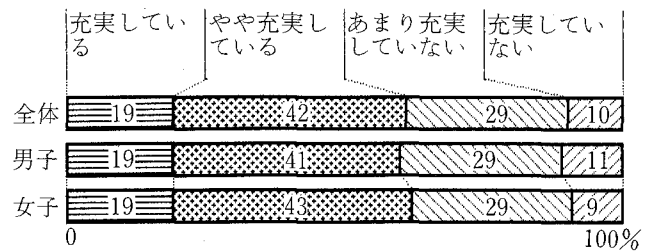


図16 衣生活の充実感

表4 数量化Ⅱ類の分析結果

項目	カテゴリー	カテゴリースコア	偏相関係数
着こなしに自信がある	ある ない	0.072 -0.197	0.227
服装によって気分が左右される	左右される 左右されない	-0.059 0.036	0.092
服の組合せを楽しむ	楽しむ 楽しまない	0.025 -0.098	0.086
自分の服に鮮やかな色を好む	好む 好まない	0.055 -0.027	0.079
異性に魅力的にみられる服装をする	する しない	-0.047 -0.033	0.075
個性的で大胆な服装をするのが好き	好き 嫌い	0.043 -0.031	0.067
いつも(女,男)らしい服装を心がけている	いる いない	0.022 -0.043	0.063
シンプルなデザインの服装を好む	好む 好まない	-0.017 0.040	0.053
着心地や肌ざわりの良い服装をする	する しない	0.010 -0.056	0.050
既製服に自分なりの工夫をする	する しない	-0.033 0.013	0.042
相 関 比		0.329	
身体特徴に気になるところがある	ある ない	-0.071 0.050	0.122
チャイナドレスの着用経験	ある ない	0.181 -0.010	0.083
今後の民族衣装利用希望	利用したい 利用したくない	-0.098 0.013	0.072
衣装のレンタル利用経験	ある ない	0.212 -0.006	0.072
個性的なものをかう	買う 買わない	0.016 -0.052	0.058
新しいファッションを積極的に取り入れる	積極的 消極的	0.053 -0.016	0.056
被服費にお金をかけている	かけている かけない	0.043 -0.018	0.054
相 関 比		0.252	
居住形態	自宅 寄宿舍(寮) アパート その他	-0.001 0.033 -0.126 -0.084	0.096
学 年	1年 2年 3年 4年以上	0.081 -0.010 0.000 -0.042	0.059
性 別	男 女	-0.002 0.002	0.005
相 関 比		0.108	

注1

注2

注1 20項目中10項目は記載省略

注2 14項目中7項目は記載省略

に自信があり、服装によって気分が左右されないで、寄宿舎に住む者である。

Ⅳ 要約・結論

中国における若者の服装に対する意識と行動を知るため、北京在住の学生を対象に、1994年に調査を行った。結果は次の通りである。

1) 衣服は個人の美や魅力を表し、身だしなみや儀礼としても大切だという衣服観をもっている。

2) 被服は計画的に購入するが、購入する店は決まっていない。流行のデザインや色にやや敏感で個性的で本当によいものを買う。被服費にお金をかけないほうであると認識している者が多い。被服の購入態度に男女差はほとんどない。

3) 服を購入する際に重視するのは、デザイン、サイズ、機能性（着やすさ）、価格、色・柄の順であり、デザインに対する重視度が高い。

4) ファッション情報源は店の商品、街ゆく人の服装から得ており、雑誌、新聞、テレビは情報源になっていない。

5) 自分の身体寸法を知っているのは半数強、身体特徴に気になるところがあるのは半数弱である。

6) 民族衣装（チャイナドレス）着用経験は極めて少ない。女子の約半数は今後着用してみたいと希望している。衣装のレンタルについては社会的に熟していない。

7) 着装意識においては服装の外観を重んじ、色の調和に注意し、時・場所・目的に応じた装いをし、着心地や肌ざわりの良い服装をする意識が強い。全般に女子の意識が高い。

8) 着装意識に対する反応の数量化Ⅲ類による分析結果、周囲の目を気にするかどうか、ファッションに積極的か否かの2軸が析出され、クラスター分析の結果、4タイプに分類できた。服装において周囲の目を気にし、ファッションにはかなり積極的、やや積極的、周囲の目をやや気にしファッションには消極的、周囲の目を気にせずファッションにかなり消極的の4タイプである。周囲の目を気にし、ファッションに積極的な意識をもつ者が多い。

9) 60%の者は衣生活に充実感を感じている。身体特徴を気にせず、着こなしに自信があり、服装によって気分が左右されない意識と寄宿舎生活が衣生活充実感に寄与している。

中国は時代の移り変わりの中で、服装も多様な特色を呈してきた。社会的変革を経て、市場経済への道を進んでいる今、一般市民は経済発展に力を入れ、生活レベルを高めつつ、かなり自由で安定的な生活をしている。その中で、若者の大学生は服装の外観を重んじ、服の色の調和にも注意し、TPOに応じた装いをするなど周囲の目を意識しつつ、ファッションに対して積極的な意識をもって生活しており、個性的で本当に良い服を購入しようとする傾向にある。

現代は交通通信の発展により国々の交流が盛んになり、国際化が進展している。中国においても時代の流れを受け入れ、国際化しつつある。服装に対する意識と行動にはそのことが現れており、ファッション化社会へ進んでいることが明らかである。

さらに、中国の経済力が高まり、生活が豊かになるにつれ、個人の美や魅力を表現できる被服を求める一方、個性的な服装をするであろうが、奇抜、大胆な服装でなく、周囲と調和する服装をするよう期待したい。そのためには温和で個性のある被服がデザインされ、供給される必要がある。本当によいもの、着心地や肌ざわりのよい被服も大量に求められるであろうから、

被服素材の品質や被服の生産技術の高度化が必要となる。また、民族服を着用しようとする人が増え、民族服が復活する時期も到来すると思われる。今後、中国の衣料業界はさらに国際化していくとともに、中国人の気質にあう被服を作る段階に入ると考える。

終わりに、調査にご協力くださいました大学生の皆様と尹成奎先生、データ集計でお世話になった大亀律子さん、森野由紀さんに厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 王輔世 上海戲劇学院 中国諸民族服飾図鑑 柏書房 15 (1991)
- 2) 周汎 高春明 中国古代服飾風俗 陝西人民出版社 (1988)
- 3) 1994年9月30日付南方週末(新聞) 朱永 「45年前の天安門」
- 4) 中共術彙解編集委員会 中共術語彙解 中国出版社 70, 134 (1971)
三反五反 「三反運動」と「五反運動」を合わせた名詞である。「三反運動」は1952年初に始めた。党の内部で「汚職を批判し、ぜいたくを批判し、官僚主義を批判する」という運動を起こした。この運動で数千万人の共産党人が逮捕され、政治が乱れて、後に党内の激しい闘争を起こした。「五反運動」は1952年の春に始めた。私営の商業を対象として「賄賂、脱税を批判し、盗窺国家資料を批判し、労働力や材料の出し惜しみ、国家経済情報の盗みを批判する」という運動を起こした。この運動で一切の私営の商工業の積極性を打撃した。
- 5) 四清運動 1963年に始めた。1, 農村を対象に、経済状態を調べる。2, 社会主義に反する思想がないかを調べる。3, 個人的な集団を結成していないか組織を調べる。4, 政治関連のことを調べる。(中共術語彙解 P199より)
- 6) 文化大革命 1966年から始めた。一闘 資本主義の道をゆく当権派を打ち倒す。二批 資産階級的な反動的な学術の権威を批判する。三改 教育、文芸を改革し、一切の社会主義の経済基礎に合わない上層建築を改革する。(中共術語彙解 P171より)
- 7) 草野篤子 前山加奈子 中国市民家庭における消費構造分析—主として耐久消費財の購入について— 日本家政学会誌 45巻4号 271 (1994)